

上位との対戦は避けられない。中日には鬼ヶ嶽に初黒星を喫したものの、七日目は自力のある出羽翼に対して、左を差しての寄り切りで早くも勝ち越しを決めた。

前頭下位ながら西神門とともに七日目に勝ち越しを決めた剣将。バランスのいい体型を以て親方の中でもファンが多い剣将だが、何でも師匠の麻縄親方からは「旧型なので好きてはならない」と言われているらしく不憚な剣将。



剣将○(寄り切り) ●鳥海波

しかし、今場所はそのバランスの良さからか、初日に玄武岩に敗れたものの二日目から6連勝。ここから上位と対戦が組まれる可能性もあり、七日目までのような相撲が取れるか注目したい。

三役陣は、小結四季嶋が若ノ嶋、春ノ翔の2横綱に勝って勝ち越せば殊勲賞確実という声が上がっている中、七日目は千代鈴と対戦もし勝てば3横綱総なめというところだったが、残念ながらそうは行かなかったが、4勝3敗と白星先行で勝ち越しまであと2つとした。

四季嶋以外の三役陣は苦戦を強いられ、関脇鹿富士、烏帽子岳、小結月山と3人とも2勝5敗と後がない状況。鹿富士は先場所、千秋楽に勝ち越しを決めて大関への道をぎりぎりつないだが、今場所は相手に差される相撲が多く精彩を欠いている。ここから踏みとどまれるかどうか、大事な残り4日間だ。

今場所は先場所の横綱大関による優勝争いが嘘のような大波乱の展開で、若ノ嶋、春ノ翔が途中休場し、大神楽も3敗で優勝争いから後退、千代鈴独走の様相を呈している。

伏兵が千代鈴の全勝を阻むのか、それとも千代鈴が横綱初優勝を全勝で飾るのか、終盤戦を楽しみにしていたきたい。

(錦風)

十両は麒麟王が単独全勝

十両も四、五日目、中5日をおいて中日と七日目が行われた。

五日目を終わった時点では5連勝は麒麟王と鹿麒麟の2人の麒麟。

麒麟王は連日上手な攻めが冴えての白星で、中日と七日目も右攻めからの取り口で無傷の7連勝。ここまでは向かうところ敵なしだ。十両に陥落してどうかと思われたが、心配は無用のような。

ここ最近では友砂親方が綱乃花の指導に付きつきりだ。大綱嵐や麒麟王など他の力士は稽古を見てもたえないのが低迷の一因なのかもしれない。麒麟王は優勝して再度存在感を示したいところ。先場所の若雲山同様、どこまで連勝を伸ばすのか注目が集まりそうだ。

対する鹿麒麟は安定した左差しからの相撲を見せており、勝ち越しをかけた中日は駒波との一番。すぐに左を差して寄ったまでは良かったが、足がうまく送れず土俵に廻しが付いて連勝がストップ。



鹿麒麟●(引き落とし)○駒波



西勢里●(押し出し)○麒麟王



麒麟王○(押し倒し) ●日向藤

そして後に続く2敗勢は6人。中でも蛮国は東六枚目の地位とあって、あと残りすべて

勝つくらいでない昇進は難しそうだが、来場所に繋げるためにも白星を一つでも上げておきたい。

桜吹雪が連敗スタートから4連勝とし白星を先行させた。残り4日全部勝って8勝に乗れば、他の力士の結果如何では昇進の可能性は残されている。今場所幕内に入った桃乃洲に続けるか、頑張りどころだ。

西旭も軽量を武器に優勝争いに加わるうまい相撲を取っている。軽いのが懸念されていたが、必ずしもマイナスではないことを証明しているかのようだ。春日根親方も予想以上の結果に、とうより予想通りの結果だったのかもしれない。

幕下では圧倒的な強さを見せていた機若だが七日目を終わって2勝5敗と今一つ波に乗れていない。先場所の茅ヶ崎もそうだったが十両では幕下の時のような相撲が見られなかった。連敗を止めたが、調子はまだまだのよう。勝ち越すにはもう負けは許されない。

(勝間田)

幕下は錦風対春日根

幕下は6月11日に初日、17日に二、三日目までを行い全勝は逆起、逆馬山、玉乱自力岳の4人となった。

今場所の幕下は部屋別勢力が凄いいことになっている。最多を誇る桐壺部屋で8人。次いで錦風部屋の6人で、桐壺部屋系列である麻縄部屋の3人を含めるとこの3部屋で幕下の半数以上を占めることに。他では磯ノ海部屋と春日根部屋が各4人となっている。

その中で久しぶりの関取誕生を期する錦風部屋の逆起と逆馬山だ。ともに初日から幸先よく白星スタートを切って、逆起は三日目に先場所十両の茅ヶ崎を押し倒して下すと



茅ヶ崎●(上手投げ)○逆起

逆馬山も三日目に強敵の菊地原に差し勝ち、勝ち越しを決めた。

だが、絶好のスタートを切ったにも関わらず半信半疑なのは錦風親方。「ようやくここまで上がったけど、まだ本当は強いのかどうか分からないよ」と、2人のこの快進撃に何とも弱気な発言。

それに対し「強いからこそここまで上がったんじゃないの?」と正論で返す鹿賀乃戸親方。今のところ、逆起が昇進する可能性は濃厚と言っているが、あとはその不安を優勝で自信に変えるしかなさそう。

秋田親方、国技館初来館

秋田県鹿角市在住の秋田親方が、四日目五日目の本場所に初めて参加した。自分の父親より年配の親方に当初は緊張していた様子だったが、実物の国技館や数々の小物類、歴代力士のレプリカ、屋根裏の蔵物など瞳を輝かせて見入っていた。

実際に目にする上位力士の取組にも興味深々。愛弟子千曲海や難波山の取り組みにも厚い声援を送っていた。



逆馬山○(寄り切り) ●菊地原